

市民病院通信

市民公開講座

市民病院では、地域の皆さんに市民病院を知っていただき、健康管理に役立てていただくことを目的に、著名な大学教授や当院医師による市民公開講座を開催しています。事前申し込みは不要で、参加費は無料です。会場は市民病院2階の講堂で、定員を超えた場合は、別会場で聴講できます。

これまでに開催した講座の内容は、左上のとおりで、皆さんの関心の高い疾病をテーマとしています。講座のアンケート結果では「すぐく分かりやすかった」「とてもためになった」など

のご意見を多くいただいています。今後の予定は、左下のとおり「認知症」「ロコモティブシンドローム」などをテーマに講座を開催します。専門の医師が皆さんの疑問にお答えします。ぜひ、ご参加ください。

市民病院管理課 (☎56・3171)



これまでの記録

- 第1回 (4月24日)
「アトピー性皮膚炎と皮膚バリア機能、スキンケア」名古屋大学大学院医学部皮膚科教授 秋山真志氏
- 第2回 (5月16日)
「乳癌治療の流れについて」市民病院外科部長 (乳腺内分泌外科) 和田応樹
「乳癌の早期発見について」国立病院機構名古屋医療センター乳腺科医師 森田孝子氏
- 第3回 (7月11日)
「癌について ちょっと勉強してみませんか?」市民病院外科部長 (消化器外科) 藤竹信一 / 「大腸疾患に対する外科治療の最前線～標準治療から最新治療～」名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学講師 中山吾郎氏
- 第4回 (9月12日)
「心疾患と動脈硬化について」市民病院診療情報部長 (循環器内科) 齋藤誠

今後の予定

- 第5回 (12月12日(土) 午前10時～11時)
「西尾で認知症になったら」市民病院精神科部長 川崖拓史
- 第6回 (28年2月27日(土) 午後1時30分～3時)
「腰椎症について」市民病院副院長 (整形外科) 齋藤晴彦 / 「ロコモティブシンドローム―長寿と健康の不都合な関係―」名古屋大学医学部附属病院長・名古屋大学大学院医学系研究科整形外科教授 石黒直樹氏

市民病院Q&A

Q インシデントという言葉をよく聞きますが、アクシデントとどう違うのですか?

医療安全管理室長 高須照美



A 市民病院医療安全管理指針の中にも記載があります。アクシデントは、患者さんの病気そのものではなく、医療行為によって引き起こされた障害のことをいいます。インシデントは、患者さんに新たな治療が必要となることはなかったが「ヒヤリ」としたり「ハット」したりした体験のことをいいます。インシデントをそのままにしておくと類似した事象が再度発生したり、大きな事故につながってしまったりする可能性があります。そこで当院では、全職員を対象として、インシデント・アクシデント報告をすることになっており、医療安全報告システムを活用して、リアルタイムに情報の収集を行っています。そして、報告された内容に関係者で確認・検討を行い、改善対策を立案し、実施・評価することで再発防止に努めています。今後も全職員が情報の共有を行い、協力をして、患者さんやご家族に安心で安全な医療を提供できるよう取り組んでいきます。

市民病院医療安全管理室 (☎56・3171)